

【追加募集】

担任者 **浜野 潔**

テーマ 近世・近代・現代の日本経済史

指導概要 インターネットの情報検索では分からないような事柄を、足を使って調べるとというのがこのゼミのコンセプトである。ネットワークの発達によって、パソコン1台でさまざまな情報が簡単に取れるようになった。しかし、ネットワークに流れている情報は、われわれをとりまく情報のほんの一部でしかない。たとえば、経済史という分野の情報は、文書や人びとの記憶の中に、ともすると埋もれようとしているものが多い。それゆえ、経済史のゼミ活動は、教室の中だけでは不可能である。現場に出かける、インタビューをする、古文書を調べる。まさに、地を這いずり回るような作業が不可欠といえるだろう。このようなフィールドワークを中心に、次の3つの課題を順に行なってゆく。

共同研究（2年次～3年次）

4～5人で作られたグループが自由に課題を設定し、レポートをまとめる。今春卒業した1期生は「大阪の庶民経済史」をテーマに「商店街」「渡船場」「町工場」「銭湯」「祭」といったテーマに取り組み、論文集を作成した。なお、2期生（4年次生）も調査活動を本格化させており、他大学の日本経済史ゼミと報告会を共催する計画を立てている。

ディベート大会（3年次）

思考能力を高め、プレゼンテーション能力を磨く上で、「競技ディベート」は最良の手段といわれる。昨年は2期生が「日本学生経済ゼミナール・関西ブロックインナー大会」に出場して2部門で優勝した。今年度は3年次生が10月に東京で行われる「経済史ディベートルীগ」に参加する（慶應義塾大学・専修大学の日本経済史ゼミと対戦予定）。

卒業論文（3年次～4年次）

3年次秋からは各自卒業論文に取り組み、4年次春学期に完成する。論文テーマは、標題にもあるとおり、近世から現代までの日本経済史・社会史・人口史などから自由に選ぶことができる。

教科書 未定。開講時に指示する。

参考文献 未定。開講時に指示する。

応募者への課題

関西大学入学後、経済問題、または社会問題のジャンルで関心を持ったことを一つ選んで論じなさい。その際、必ず「自分の意見」を含めるようにすること（希望ゼミ変更により「履修申込書（第1次）」が新たに必要な場合は、経済学部事務室に申し出ること）。

応募者への要望

このゼミは、基本的にフィールドワークを重視するので、行動的なタイプの学生に最適であると思われる。共同研究を遂行するため、週末や休暇中などを利用して調査を行なうこともあることに注意すること。

なお、4年次の授業は春学期集中となる。そのため、卒業論文の提出期限が卒業より半年早く、2007年7月となることをあらかじめ承知した上で出願すること。

入ゼミに関する追加情報を研究室のウェブサイト上で流す予定である。出願者は、適宜下記へアクセスすることが望ましい。

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~hamano/>